52. 竹細工の盛んな頃

撮影：昭和30年７月

現在、竹製品といえば、名工といわれる茶畑の芹沢さんが作る竹細工品のように、民芸品的に扱われるようになり、観光地に行くとみやげ物店に民芸品のみやげ物として売られています。戦後、産業の目ざましい発展によりプラスチック製品が出現しました。この以前は、竹製の容器は生活必需品として欠くことのできないものでした。農作業に用いられた篭類、お勝手用のざる、ご飯びつから弁当びつにいたるまで、雑貨屋さんには竹製品が山と積まれていました。これらの竹製品はカゴ屋さんで作るだけでなく内職として一般家庭でも作られていました。

単価が安いため量産しなければ収入は少ないので、暑いときも寒い時期も、手の荒れにも負けず一生懸命に作業していた姿が思い出されます。

53. 自然は偉大で恐ろしい

撮影：昭和33年７月

うっとおしい雨空の続いた梅雨も、ようやく明けてやれやれと思ったのもつかの間、カンカン照りの夏が一気にやってきた。初期生育の良かった陸稲も、耕土の浅い畑では早くも葉枯れが見えはじめついには枯死する株が目立って多くなってきた。農家では、辛うじて生きている株を、枯死株の少ない畑に移植したり、水をかついで運搬しかん水して一生懸命に手をつくしたが、焼け石に水のありさまで、ついには全滅の畑が続出した。

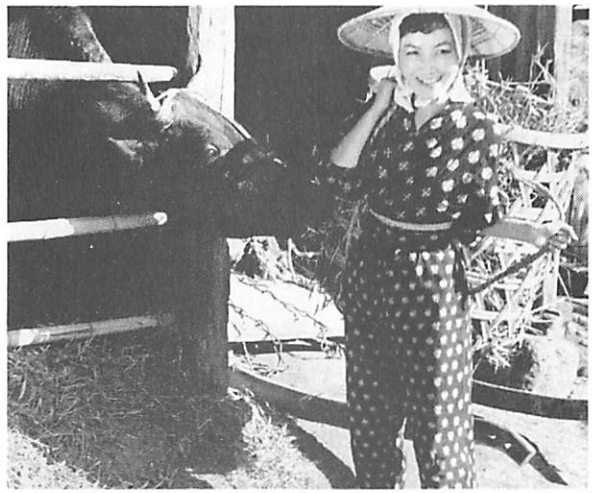
やっと生き残り出穂を見た陸稲も白穂が多く、この秋の収穫は少なかった。

農家の人々は、自然と共和しながら、自然との戦いを続けて汗を流します。それでも報われないことも…。

この年、狩野川台風が来襲し、伊豆地方に大被害をもたらした。

54. 農家の働きもの

撮影：昭和29年８月



「ホラ・ホラ・ちょっと待ってよ、ベエちゃんもお腹がへったか知れないけどお姉ちゃんも腹ペコだよ、わかったよ、いまやるからネ」と牛と話しながらの娘さん、暑さにもめげず田の草取りに励む。いまは昼どき。現在の農家では、娘さんが田や畑に出て働く姿などほとんど見られないし、牛や馬の姿も見られなくなった。

この頃の農作業は、全部手仕事であったから牛や馬は唯一つの原動力であり家族の一員として可愛いがっていた。牛もよく家族になついていたものですが、いまは畜産農家にしか見られません。

あの頃の農業は、人手がいくらあってもたりないときでしたから、娘さんは勿論、学校へ行っている子どもまで農作業の手伝いをしました。ほんとうに昔の話。

55. 真夏の田園風景

撮影：昭和33年８月

田植のあと、一番、二番の田の草取りも済み農作業も一段落です。

今日も朝からヂリヂリと真夏の太陽は容赦なく照りつけます。定期的な農作業が一段落したとはいえ、こんな暑い日でも農家の人々は休んではいません。野まわり（田の見廻り）をして日干し、水かけの手配り、くろ刈り（田の畝の草刈り）等々、でもこの頃は猫の手も借りたい忙しさではないのです。なのに猫も犬もお手伝い？　お母さんと娘さんのあとについて犬も猫もやってきました。犬は「この暑さではたまらないよ、参った、参った」という表情。猫はこれを見て「ニャンともまあ……それを夏のヤセ犬と言うんだネ」そんな会話がきこえるような、お母さんと娘さんはさて何を話しているのかな。真夏の田園風景。

56. 中駿大同団結の日

撮影：昭和32年９月

昭和27年４月１日、小泉村、泉村が合併して裾野町となりました。日米行政協定の成立、保安隊の発足がこの年でした。昭和31年９月30日、深良村が裾野町へ合併しました。御殿場線にディーゼルカーが運転開始されたのがこの年です。昭和32年９月１日、富岡村、須山村が裾野町へ合併して中駿五ケ村が一つに団結しての裾野町の発足となりました。この年にソ連が人工衛星の打ち上げに成功しています。

写真は、合併祝賀式典の一場面、万歳の表情にも喜びがあふれていました。

長い年月、中駿五ケ村の行政を担当して、今日の裾野市発展の基礎を築かれた元老の方々の顔がいきいきと輝いて見えます。いまは亡き方々のめい福をお祈りいたします。

57. 愛鷹山登山道調査

撮影：昭和34年９月

中駿の大同団結による裾野町の発足で商工会も活動を開始しました。また地域毎の活性化を図るためにも、観光協会の設置も必要になりました。町経済委員会、商工会の関係者が中心となって観光協会設立に努力しました。

こうした経過の中にも実践活動は始まりました。旧須山富士登山道を復活するための登山道調査、愛鷹山登山道の現況調査、動物、植物などの調査等、足を使っての調査が活発に行われました。

写真は、愛鷹山呼子岳の頂上での一服風景です。皆さんこの頃はまだまだ元気旺盛で終日歩いても疲れを見せなかったものです。こうした調査を繰りかえし行って、登山道の整備や、アシタカツツジ原生群落の保護指定等につながってきたものです。

58. 郷土の生んだ政治家

撮影：昭和33年９月

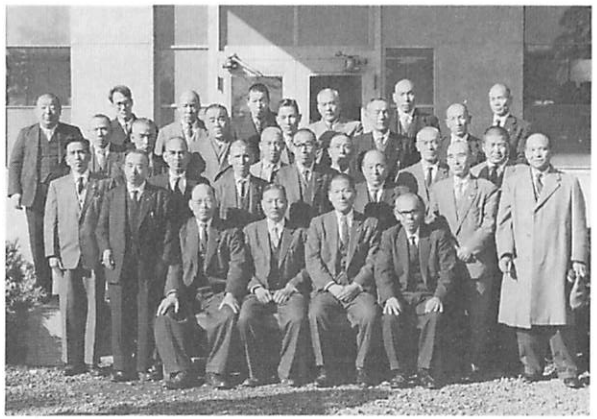
郷土の誇る政治家故遠藤三郎先生が、建設大臣に就任されて晴れのお国入りをされたのは、昭和33年夏の頃でした。

その年の春まだ浅い頃、先生が入閣するかもしれないという話が秘書の方より入り今か、今かと待ちわびたものです。いよいよ組閣の日の朝建設大臣の報が入りました。その日裾野町は喜びに湧き立ちました。

お国入りの祝賀会は西小学校校庭で開催されました。喜びと大臣の抱負を語る先生の顔は勿論、富岡地区の皆さんの顔は殊のほか鼻が高く見えました。

59. 裾野市の基礎を作った人々

撮影：昭和32年10月



昭和32年９月１日、須山村と富岡村が裾野町に合併して中駿五ケ村の大同団結ができあがりました。この写真は、その当時の裾野町町議会議員の先生方です。

すでに故人となられた先生も半数を数えますが、肉親の方や親戚の方々、恩人と尊敬する方、知人、友人と市民の皆様の中には非常に懐かしい想い出の姿ではないでしょうか。

中駿五ケ村合併の推進、工業立町とする企業誘致、観光資源の発見と観光開発、道路網の整備、教育施設の充実、福祉行政等々、情熱を燃やした先生方の顔が印象強く目に浮かびます。

60. 今は見られない秋祭りの山車

撮影：昭和31年10月

「ピーヒャラヒャラピーヒャラ、ドンドンツクツドンツクツ、チャンチキチチャンチキチ」秋祭りの笛、太鼓、鐘の音が聞こえてくると、貰った小遣いを固く握って祭りの夜店に駈けて行った子どもの頃を思い出します。秋祭りの最後を飾るのは二本松（佐野上町、緑町、元町）の浅間神社のお祭りで、山車が出て賑わったものです。今は交通関係で山車が出なくなり秋祭りも一抹の淋しさをおぼえるのは私だけでしょうか。

テレビでは、各地でお祭りの催し物が色々と盛大に復活していることを報じているこの頃です。

61. 椎茸の植菌作業

撮影：昭和30年11月

この当時、裾野町ではきのこ類の人工栽培を計画し、まず椎茸とマッシュルームの栽培を推進指導していた。

マッシュルームは、沼津北部高校の藤沼先生が種菌培養のパテントを取られたので、先生について教えを受けた。

椎茸は、椎茸研究の権位者である広江博士に師事し、11月から3月にかけて発生させる促成栽培を習得したので、この技術を普及指導していた。しかし、裾野の農業はなんでも栽培できる面があって、残念ながら産地化には至らなかった。

しかし、深良と今里には大大的に栽培し成功している方がいます。

62. ヒッパリッコ

撮影：昭和30年12月

戦後10年、食料事情も徐々におちつき、経済復興のきざしも見えてきた頃でしたが、子どもたちの遊び道具にまでは手が届かなかったのでしょう。今は、オモチャ屋の店には木製からプラスチック製電気製品等、ありとあらゆる玩具が並んでいますが、この頃はせいぜいゴムマリくらいのものでした。それでも子どもたちは元気で健康で、子守やできる範囲のお手伝いをしながら、子どもたちで遊びを見つけて朗らかに遊んでいたのです。

もうすぐお正月、さて何を買ってもらうのかな、マリかな、服かな、それとも靴かな。

63. 帰　　郷

撮影：昭和31年12月

師走もおしせまって、あしたはモチつきです。お父っちゃんは、オセチ料理やおぞうにの材料に、大根やら里いも、人参などを掘りに行った。

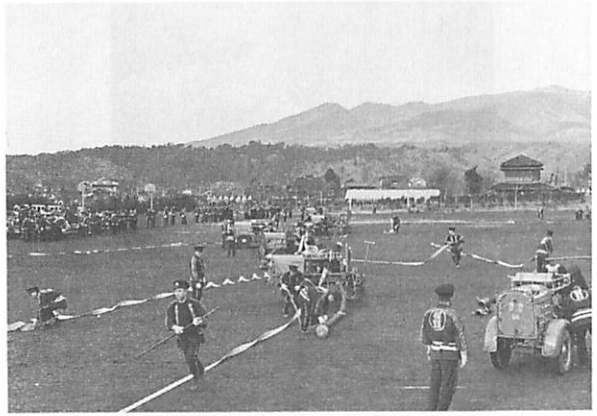
都会に働きに出ている娘は、冬休みで久しぶりに帰ってきた。でも田舎は正月を迎える準備でおおいそがし、娘の相手になってはいられない。

「久しぶりに山や畑の景色を眺めながらお父っちゃんを迎えにゆこう。」

きっと、こんな場面でしょうね。今はもちろん、馬力も見られないし、こんな山村の風景は見ることのできない一幅の絵でありましょう。

64. 出　初　式

撮影：昭和32年１月



昭和31年９月１日、深良村が裾野町へ合併した。翌年の消防出初式は裾野高等学校の校庭で行われた。

消防ポンプも今昔の感がありますね。たしかこの頃は、自動車ポンプは２台くらいだったと思います。ガソリンポンプが花形、ポンプ操法にも真剣そのものです。ガソリンポンプは、人力で引いて火事場へ走るのだから、消防手はとても大変だったのです。

今は、消防署が設置され常設消防士が活躍してくれますから、市民は枕を高くして眠ることができます。

65. 岳麓に見る牛馬力

撮影：昭和30年２月

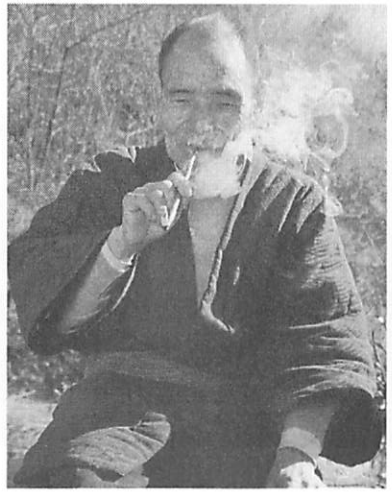
このあたりでは、昔から馬車とは言わず馬力と言っていた。馬に引かせる荷車だったから馬力と言ったのでしょう。発動機は何馬力と言われます。昔は、馬が動力源の最たるものだったのでしょう。

戦中は、農耕馬も軍用馬として軍隊に徴用され少なくなってしまったので、馬の代用として役牛を使うようになったのです。牛は温和で女、子どもにも使えたので馬ほどの能率はあがらなかったけど重宝がられました。

牛が引く車は、牛馬力と言い、馬力より少し小型にできていました。

66. 一ぷくするおじいちゃん

撮影：昭和29年１月



地位も、名誉も、名もいらず、ただ一心不乱に働き続けて70余年、今年の秋はお子さんたちが、赤い帽子にチャンチャンコを着せて米寿の祝いをしてあげるとか言っていた。煙草入れ、キセルを持つ手指は大きく力強くまだ若々しくさえ見える。

仕事の合間の一服はいかにもうまそうで、吐く煙りも力強い。幾星霜を野良仕事一筋に生きた人生は、語らずともその風貌に出ているようで、野良着姿がよく似合うおじいちゃん。私の父も90歳で亡くなりましたがどこか似ているように思い出すのです。

67. あの頃の農業近代化事業

撮影：昭和34年３月

富岡地区の演習場に隣接する農耕地は大面積があり、陸稲や豆類、とうもろこしなどが栽培されていた。ことに北部には水田がなかったので、陸稲は大事な作物であった。しかし、この地域の表土は黒ボクといわれ、その下は富士マサと呼ばれる不透水盤層があって水を通さないため、長雨や日照りの災害を受けることが多かった。昭和34年新農村事業の指定を受け、大型農用ブルドーザーを導入して深度１メートルの富士マサを破さいし優良農地の造成を行い関係住民に喜ばれた。しかし今はトヨタ、関東自動車の企業用地となっている。

68. 山羊といっしょに

撮影：昭和33年３月

「アレアレ駄目よ、そんな方へ行っちゃ駄目よ、もっとゆっくりまっすぐ歩いてよ、ホラホラ車がぶつかってしまうじゃないの」。農家では自家用の乳をしぼるため乳牛を飼っていない家では山羊を飼っていました。

娘さんが仕事道具を車に積んで野良仕事に出かけます。山羊には新芽の出てきた草をたくさんたべさせようと、いっしょに野良へ連れていきます。

おじいちゃんは、日向ぼっこをしながらかわいい孫娘の仕ぐさに笑いかけます。小春日和ののどかな山村のほほえましい風物詩。

69. 彼岸過ぎての麦の肥

撮影：昭和32年３月

その昔、日本陸軍の兵士がかぶった戦闘帽を格好よくかぶり、手拭いを首に巻いて、まさに農業戦士、老兵は死なずただ働くのみ、といったいで立ち。ガタガタしたってしょうがないネエ。一服やるベエ、エヘヘヘエ……。腰から引き抜いたタバコ入れ、キセルの鞘の割れたところに絆創膏を巻いたところなど当時を彷彿とさせます。「彼岸過ぎての麦の肥」だからな遊んじゃあいられネエヨ、と笑っていた。麦作は彼岸過ぎてから追肥をすると、おそ出来がして減収するとの意味なのです。このおじいさんいまも元気でいるだろうか。

70. 旧裾野市役所の庁舎

撮影：昭和35年３月

昭和27年小泉村、泉村が合併して裾野町となった当時の役場庁舎は、それまでの小泉村役場（現在聖心幼稚園の所にあった）を使用していたが、非常に狭小な建物だったので裾野町役場として新築したのがこの庁舎です。

この庁舎も、昭和31年深良村が合併し、さらに昭和32年富岡村と須山村が合併したことにより手狭となったため３階を増築しました。この写真は３階増築前のもので、この写真を撮影した時は市民会館の建設中で、屋上のコンクリート打ちがおこなわれていた時で、その屋上に登って撮影したものです。

71. 田園の一隅で

撮影：昭和33年５月

戦後11年を経たこのころは、ようやく衣食住も豊かになりつつあって、前途が明るくなってきたころです。

この前年、富岡村、須山村が合併して中駿５か村が団結一丸となり、現在の裾野市繁栄の基礎ができあがった年です。

裾野町とは言っても、私の住んでいる所など片田舎の一隅でしかありませんでした。写真左上に見える屋根が私の家ですが、最近の豚舎の方が立派ですね。

でも、小さな畑には麦の穂が波を打ち、菜の花も咲き、苗代の苗も伸びてとてものどかに思いだされます。この年狩野川台風で伊豆地方は大被害を被った。

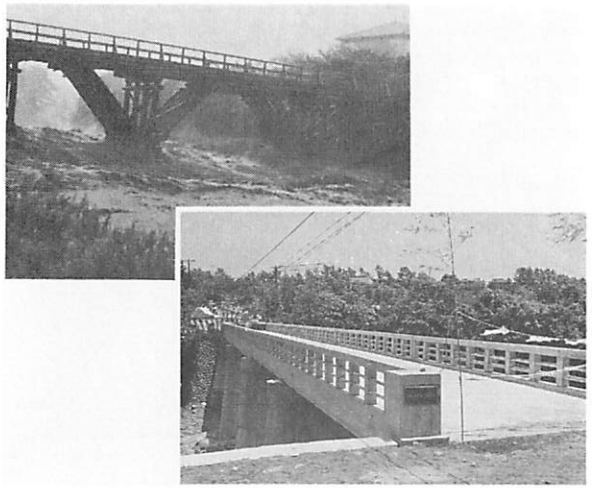
72. 田植、掛け声が聞こえるようだ

撮影：昭和30年６月

当時の田植は大きな掛け声で作業をするにぎやかなものでしたが、作業順序は掛け声によって進行するのです。最初は田を横に代をカク、これを一鍬という。次は縦に代をカク、これを交互に二鍬、三鍬と代カキをする。掛け声は一鍬目がヨンヤサ、二鍬目はタイギダ、三鍬目はカイダセ、四鍬目がオシキレ、五鍬目はハンヨダ、六鍬目はカイコダ、最後の鍬はナラセヨ、で終了する。一鍬から三鍬目までは鼻取りは歩く行を細かくし、代カキは力強くマンガを押し三歩押したらマンガを上げ、また押す。四鍬目のオシキレではマンガを上げずに押し切る。ハンヨやカイコの鍬では鼻取りは荒目に歩き、代カキは高目の所を低目の所へわずかに押す。ナラセはマンガでザブザブするようにして終わる。

73. 大畑橋の今昔

撮影：昭和37年５月



この橋どこの橋かわかりますか。昭和10年代以前生まれの人たちには思い出の深い橋、時代劇映画のロケにも度々撮影された懐かしい木橋の大畑橋でした。昭和31年７月23日の台風集中豪雨で危険にさらされ、警戒についた町職員（現水道部長古谷さんら）の見守る中でアッと言う間に流出、この写真は流失１時間ほど前の撮影によるものです。昭和37年５月新しい大畑橋がようやく完成して経済文化の交流発展に大きな役割を果たしてきましたが、時代の流れに即応して昭和63年度には新しい橋にかけ替えられるそうです。

74. 町民会館落成式典

撮影：昭和34年８月

昭和34年といえば、皇太子さんが正田美智子さんとご成婚の年です。国民こぞって祝福しました。しかし悪いこともありました。伊勢湾台風が上陸して甚大な被害をもたらしました。安保改定反対デモ隊が国会構内に突入して世間をさわがせました。

裾野町民にとってはおめでたい年となりました。それは、待ちに待った町民会館、公民館が落成したのです。中駿５ケ村が合併したものの、行事があっても寄り所がなく、庁舎の屋上で済ませたものです。落成式のこの日は晴れ晴れとした顔が新しい町民会館一ぱいに見られた。

75. 合併祝賀式典

撮影：昭和32年９月

昭和32年９月１日富岡村、須山村が裾野町に合併し中駿５ケ村の大同団結が実現した。23,000人の町民は心から祝福して合併発足祝賀式典を挙行することとなった。この祝賀式典は各種団体、町民こぞって盛大に開催された。式典は東小学校で行われその席上、町章制定のため公募された入賞者の表彰も行われた。また全世帯に町章染め抜きの手ぬぐいを１本ずつ配布、小学生、幼稚園、保育園児には打ち菓子を１個ずつ贈った。催し物は、商工会による花火100発の打ち上げ、小学生児童の旗行列、青年団による演芸大会、駅前広場では山車のシャギリ、婦人会による踊り、県東部相撲大会等々が催され町民の喜びは一入感慨深いものがありました。

76. 観光資源調査の一行

撮影：昭和35年10月

この年は、日米安全保障条約の改訂に調印され、この批准に反対する運動が激化したり、浅沼社会党委員長が刺殺されるなど物情騒然としていたころです。

裾野町では、町議会議員と観光協会役員が合同して将来の裾野町発展のために、工業立町と併行して観光開発を進める計画を立て、まず観光資源の調査を開始しました。町内はもちろん、東は箱根山の神奈川県境、北は富士山の御殿庭、西は愛鷹山等々くまなく踏査しました。箱根山の芦ノ湖スカイラインは工事中だったので大変でした。山伏峠で一服、今は亡き人もおり懐かしい想い出です。

77. 竹カゴ屋さん

撮影：昭和32年11月

店頭にいっぱい並んだ竹製品、木の葉籠、竹ぼうき、こまんざらい、市場籠、目籠、背負籠、農家にはなくてはならないものでした。農家はもちろん非農家、一般家庭にも絶対必要な笊類、大笊からコンボイザル、味噌こし、セイロ等々、メジロカゴも見えます。

朝夕の野回りには木の葉籠を背負い、鎌を持って行く、水の掛け引をしながら土手の草を刈り籠につめて帰る、馬や牛のえさです。このような懐かしい竹製品も現在は化学製品に代わり、竹かご屋さんもなくなり、裾野市内でも２、３軒を残すだけになりました。懐かしいですね。

78. 裾野市の発展を築いた政治家

撮影：昭和34年12月

昭和34年も師走を迎えたある１日、裾野市の偉大な政治家２人が対談しました。岩崎亀さんは昭和22年４月１日静岡県議会議員に当選以来、６期24年間を歴任して昭和46年３月退任。昭和47年１月10日裾野市長となり、昭和51年１月退任されました。市野昇さんは泉村当時から村議会議員を勤め、裾野町となってからも町議会議員、市議会議員を続けて議長を昭和30年７月から31年２月までと、33年10月から37年10月まで歴任されました。

この日は、裾野市の将来についての抱負を語り合っておられました。

79. 裾野町役場職員 元旦の思い出

撮影：昭和33年元旦

昭和32年９月１日、富岡村、須山村が裾野町と合併して中駿の大同団結が成されたのですが、この写真は翌年の昭和33年元旦の記念写真です。この美男美女は当時の町役場職員（有志）の晴れ姿です。場所は役場庁舎（現在の勤労青少年ホーム）の屋上です。現在市役所職員は年賀の式を行っているかどうかは存じませんが、この頃は三役以下全員が登庁して年賀の式を行いました。毎日見馴れている顔もこの朝は別人のよう。現在市役所に在職している方は丁度半数で部長、次長クラスですね。お元気で市民のために頑張ってください。

80. 思い出の政治家

撮影：昭和32年２月

（上）杉山織恵氏
（右）渡辺義夫氏

思い出の方々、裾野市の元老とも言うべき偉大な人です。渡辺義夫さんは昭和31年４月30日２代目裾野町長として就任、昭和34年12月20日退任するまでの間町政を担任されました。この間31年９月には深良村が合併、32年９月には富岡村、須山村が合併されました。

合併後の煩雑な町政を担当されたのです。今も元気で社会のために尽力されておられます。

杉山織恵さんは既に故人となられましたが、泉村、小泉村が合併した昭和27年５月31日初代裾野町助役に就任、昭和35年５月20日退任するまでの間、初代藤原重治町長から３代目小林秀也町長の女房役として尽くされました。その温和な人柄が今も目に浮かびます。本当にご苦労さまでした。

81. 市民スポーツのはしり

撮影：昭和35年３月

これは、石脇区の健民運動会の一コマです。故人となりましたが、時の石脇区長大庭忠治さんの提唱によって健民運動として区民総出で運動をすることになりました。市民スポーツのはじまりであり現在提唱されているコミュニティづくりの元祖とも言うべき運動会です。グラウンドは稲を刈り取った跡の田んぼ。３月とはいえ外はまだ寒い早春の日射しを浴びて、モンペ姿にカッポウ着、顔に汗して真剣にバレーボールに取り組んでいたご婦人たち。現在はバレーボールも盛んになり体育館で行われておりますが、しみじみと今昔の感がしのばれます。